読者ふれあいページ

「こちら虹」は楽しかったこと、ことをつづってください。「お助けるアイデアやお知恵をお寄せくださ電話番号を明記ください。

混迷・生きる
教えの庭から

先立つ子は善知識

出雲市斐川町・仁照寺住職
江角 弘道

平安時代、女流歌人の和泉式部は、ひとり娘を亡くすという逆縁に遭いました。深い絶望と悲しみの中、姫路にある書写山円教寺の性空上人を尋ね、念仏の教えを授かりました。出家の後に、娘を思い「夢の世にあだにはかなき身を知れと　教えて帰る子は知識なり」と詠みました。知識とは善知識と言い、仏様のみ教えに導いてくださる「よき師（諸仏）」のことです。

この歌には、「亡きわが子こそ、その命をかけて私に無常のことわりを教えに来てくださった仏様でした」という感謝の思いがあります。

私たち夫婦も20年前に、交通犯罪で20歳の娘を亡くすという逆縁に遭いました。その当時は、悲しさ・悔しさ・加害者への怒りなどで、押しつぶされそうでしたが、その後、交通犯罪で子を亡くした人たちと知り合いになり、連携して活動を始めました。「悲しい

挿絵　平尾恵郷

亡き子への毎日の読経を通じて、子育ての最重要点は、「子に命の大切さ・尊さを教えること」だとわかりました。また、仏教の教えをより深く頂けるようになりました。特に、娘の死から、ときに共に悲しんでくれる人がいると悲しみは半分になる」ということわざの通り、互いに悲しみを持つ人たちとの活動を通じて少しずつ、悲しさの質が変わってきました。

限りある身であることがわかると、今日一日を、精いっぱいに生きようとします。また、出会った人とは、必ず別れるとわかると、その今のご縁を大切に生かそうとする心が湧いてきます。そんな「大切なこと」を、わが子が身をもって教えてくれたのです。わが子に出会わなければ、どんな人生を送っていたことだろうと思う時、「わが子は、善知識様でした」と拝むことができるようになったのです。かけがえのないものを失うということは人生最大の悲しみです。しかし、そのことによって、何よりも深く人生を見る目を開けていただいたと、亡くなったわが子を拝むことができるという心の成長がありました。

最近になって、「トラウマ（心的外傷）後の成長」という心理学の言葉を知りました。人生を変えてしまうようなつらい出来事（大震災や被爆体験、犯罪、うつ病、がんとの闘病など）の逆境体験があると、多くはPTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症しますが、年月を経てから、一部の人にはポジティブな成長が訪れるということです。

長崎で原爆に遭われた永井隆博士のその後の言動は、トラウマ後の成長の例ではないかと思います。永井博士はその著書『この子を残して』摂理の章で、「…それを見た生き残りの私たちは、原子爆弾は決して天罰ではなく、何か深いもくろみを持つ御摂理の表れに違いないと思った。…これは何かしらねど、愛の摂理の表れである、と信じて疑わなかった。…原子爆弾によって私の正しい道をはばんでいた邪魔が取り除かれ、私は真の幸福を味わうことができるようになったのである」とあります。原爆によって「真の幸福」を味わえるようになったとあり、原爆投下を「深いもくろみを持つ御摂理の表れ」と説かれています。

私たち夫婦にも、トラウマ後の成長が、訪れていました。